



2021

昭和信用金庫の現況

令和2年度 事業のご報告
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

創業昭和7年 本店下北沢



昭和信用金庫

大好きな街 応援します

昭和信用金庫は88年前

有限責任昭和信用組合として設立されました。
昭和金融恐慌に起因する不況によりやく曙光が差し、
経済復興が進展し始めていた時期です。

しかし、長年の不況の痛手を受け、資金難にあえぎ、
復興の波に乗れない多くの中小商工業者がいました。
当金庫は、地元商工業者がその窮状を脱するため、
「相互扶助」「共存共栄」を目的とした金融機関として、
地元の皆さまによって設立されました。

日本経済はいま

少子高齢化による人材不足や
事業承継などの喫緊の問題に加え、
新型コロナウイルス感染症拡大が
国民生活に大きな影を落としています。
昭和信用金庫は職員の
安全に配慮することを基本に、
この街と事業者・生活者の
皆さまを応援しています。

当金庫の新型コロナウイルス感染症対応について

政府は「歴史的緊急事態」として令和2年4月と令和3年1月の2度にわたり緊急事態宣言の発出と解除を繰り返しましたが、令和3年3月末時点でも感染拡大は止まらず、緊急事態宣言下と同様の状況にあります。

昭和信用金庫は、令和2年2月から継続してお客さまの安全・安心を第一に、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組むとともに、お客さまへの支援に緊急かつ即応態勢で臨んでいます。次の項目は、当金庫の取組みです。

令和2年

2月●全店舗とサポートプラザに「経営相談窓口」を設置
資金繰りや経営に関する総合的な相談窓口を設置。また、休日にしかご来店できない方のために「休日経営相談会」も実施。

3月●緊急経営相談会

新型コロナウイルス感染症により経営に影響を受けた取引先企業の課題解決を目的に2回にわたり実施。取引先15社が参加。

6月●雇用調整助成金セミナー

当金庫と東京都社会保険労務士会世田谷支部の主催で、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う制度の拡充、申請の簡素化についてのセミナーを開催。延べ29名が参加。

9月●「家賃支援給付金※」等の申請サポート

給付金等の申請サポートを実施し、当給付金に加えて、「持

続化給付金」や「東京都感染拡大防止協力金」などの申請サポートも実施。

※資本金10億円未満の中堅企業、中小企業、小規模事業者および個人事業者を対象に、申請を審査し、法人は最大600万円、個人事業主は最大300万円の支給が受けられるものです。

10月●雇用調整助成金個別相談会

当助成金の特例措置期限が9月末から12月末へ延長されたことを受け、3度にわたり個別相談会を開催。東京都社会保険労務士会世田谷支部の専門家を相談員に迎え、申請書類のアドバイス等を実施。

令和3年

2月●オンライン経営相談窓口設置

当金庫は従来の各店（全19店舗）窓口での経営相談の他に、予約制で非接触型の「オンライン経営相談窓口」を設置。

経営理念

昭和信用金庫は、創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、
第一に、お取引先のご繁栄を願い誠意を尽くします。
第二に、地域社会の発展に貢献いたします。
第三に、調和のある健全経営を目指します。

金庫の基本方針

国民大衆の皆さまから、常に親しまれる金融機関として、
地域経済の発展に貢献することを念願として、

1. お客さまに親切に利益と繁栄を
2. 健全かつ積極的な経営を
3. 金庫に働くものに明朗な職場と安定した待遇を
モットーとして業務を推進する。

長期経営戦略のビジョン (平成27年度～)

お客さまとのFace to Faceによるリレーションを強化し、経営理念の下、顧客の課題解決に向けて情熱を持ち一緒になって考えることができる信用金庫人を長期的に育成し、身近な相談相手として寄り添える「地域になくてはならない金融機関」を目指す。

中期経営計画 (令和3年度～5年度)

「お客さまの役に立つ。」
～新たな社会環境における
『変わらぬお客さまとの長期的関係構築』への取り組み～

目標

昭和信用金庫は、
令和3年度から始まる3年間で
新たな中期経営計画年度とし、
あらためて「お客さまの役に立つ。」の実現に取り組む。

戦略目標

1. 「お客さまの役に立つ」と 「お客さまとの長期的な関係構築」の実現

- (1) 「お客さまの役に立つ」具体的な活動に取り組む。
- (2) お客さまとの長期的な関係を構築する。
- (3) 「お客さまの役に立つ」態勢を整備する。

2. 経営の持続可能性の向上

- (1) 収益の確保と効率性の向上に取り組む。
- (2) 様々なリスクに備える。
- (3) 態勢を整備する。
- (4) 企業市民としての社会的責任を全うする。

目次

皆さまへのメッセージ	3
大好きな街応援します	5
▶金融円滑化への取組み	5
▶創業・新事業支援への取組み	6
▶お客さまの経営課題解決の支援	7
▶お客さまとともに	9
▶地域社会とともに/ 働きやすい職場づくり	11
▶あゆみ	12
令和2年度の業績	13
内部管理態勢	15
▶リスク管理	15
▶コンプライアンス(法令等遵守)	16
▶お客さま保護の方針と態勢	17
総代会制度	19
経営組織	21
営業のご案内	23
計数資料	26
開示項目一覧	51
店舗ネットワーク	52

●本誌は、信用金庫法第89条(銀行法第21条準用)に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

●記載している計数は、金額は単位未満を、%は小数点第3位を切捨てで表示しています。

昭和信用金庫の概要

創 立：昭和7年12月17日
純 資 産：259億2,305万円
出 資 金：13億233万円
会 員 数：22,437名
本店所在地：世田谷区北沢1丁目38番14号
預 金：4,465億5,472万円
貸 出 金：2,002億6,474万円
店 舗 数：本支店19店舗、店外ATMコーナー2カ所
役職員数：315名
営 業 地 区：東京都23区、調布市、三鷹市、狛江市、
国立市、日野市、府中市、稲城市、武蔵野市、
多摩市、西東京市、小金井市、国分寺市、
小平市、立川市、東久留米市、
および神奈川県川崎市多摩区・麻生区

(令和3年3月31日現在)



はじめに

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

皆さまにおかれましては、コロナ禍にあり、ご苦勞も多いかと拝察いたしております。

このたび、令和2年度の経営内容や事業活動をご報告する『昭和信用金庫の現況2021』を作成いたしました。是非お読みいただき、当金庫への一層のご理解をいただければ幸甚です。

当金庫を取り巻く経営環境

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあります。基調としては持ち直しているといわれています。しかし、コロナ禍の終息は未だ見えず、東京や大阪など都市部を中心に、変異種の増加による感染症の拡大も懸念されており、引き続き経済の下振れリスクは大きいとみられています。

また、日本銀行による強力な金融緩和の継続は、貸出金利の低下要因となっており、経済の下振れによる信用コストの増加も見込まれることから、金融機関の収益状況については、厳しい状況が続くことが想定されています。

当金庫においても、貸出金利の低下には歯止めがかかっておらず、預貸金利鞘が縮小しており、本業である貸出による収益確保を難しくしています。

このような状況下ではありますが、信用金庫は地域経済を支えるインフラとしての役割を担っており、その機能を継続的に発揮していくため、引き続き収益基盤の強化に努めてまいります。

令和2年度の業績

令和2年度の業績につきましては、預金残高は4,465億円と前期比302億円増加、貸出金残高は、2,002億円と前期比145億円の増加となりました。収益面においては、資金運用利回りの低下による収益の減少と貸倒引当金の増加による費用の増加により、経常利益は減少しましたが、当期純利益につきましては、旧えびす支店の売却益により増益となりました。

中期経営計画を推進

当金庫では、令和2年度を最終年度とする3か年の中期経営計画「Action!徹底的に『重点地区政策』する。」を掲げ、「重点地区内の全てのお取引先の全ての課題を、①あらゆるアドバイス・商品・サービスを総動員し、②組織的・科学的な活動によって倍増した面談量を活用し、③感謝される水準で解決する。」に取り組んでまいりました。お客さまの課題解決を中心とした活動が、貸出金・預金の増加につながり、一定の成果を上げてきました。

展望

令和3年度からは、新たな中期経営計画「お客さまの役に立つ。」～新たな社会環境における『変わらぬお客様との長期的関係構築』への取り組み～を掲げ、「お客さまの役に立つ。」ことを目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症による自粛要請や営業時間の短縮などによる影響は、当金庫取引先の皆さまに甚大な影響を与えています。地域経済、地域の皆さまを支える使命を今こそ全うする時であり、創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神に基づき、役職員一同、一丸となって尽力してまいります。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご愛顧とご高配を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和3年7月

理事長 **内藤 博**